

講義名	社会開発論					授業形態	
担当教員	小川 実紗	開講期・曜日・時限		前期 水曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	3 年生	ナンバリング・コード	SOC380

主題と概要

「社会開発」(social development)という言葉を、経済上の発展だけでなく、土地の物理的な達成を目指す概念もあれば、人材育育の意を含意することもある。そのため、社会開発は何かを促すためには、近現代社会における発展をめぐる問題として現明に検討する必要がある。また、社会開発には社会がどのように成るのか、社会のなかでは何よりどういった方向に進んでいくのかを定めるのかを考えるとすることである。本講義では、社会開発をめぐるどのような摩擦や矛盾が発生し、それがいかに受容され、時に拒否されてきたのかについて、具体的な事例をあげつつ社会学の視点から検討する。

到達目標

- (1) 社会開業とはなにかを理解し、社会の仕組みや働き、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
- (2) 日本と世界における社会開業の様々な事例を理解すると、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
- (3) 経済成長に伴う社会開業の機会を生かして、財やサービスの流通に関わる社会の構造と変動、およびそれをもたらす人間の行為・行動を解き明かすことができる。
- (4) 社会開業について自分なりの意見を持つことができる。これを通して、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

提出課題

授業内で随時レポートを課す。また、学生の主体的な取り組みとして自学自習レポートを常に受け付ける。自学自習レポートの提出は任意であるが、内容と提出回数に応じて評価に加点する。15回終了後、期末レポートを実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内で適宜コメント・応答し、授業内容に反映する。

評価の基準

レポートでは、授業内容についての基礎的な内容理解が達成されているか、授業から理解した視点や概念を用いて、自ら社会開発にまつわる諸現象について考察できているかについて問う。上記評価基準は、授業内で課すミニレポート、期末レポートとともに同様であるが、授業内レポートでは各トピックに対する理解と意見を求めるのに対し、期末レポートではより体系的な理解と意見が求められる。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでも、社会開発の意味を意識し、改めて振り返って考えたり、社会開発に関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解をより深めていくことが期待される。

教科書

使用しない。				

参考図書

よくわかる環境社会学。	鳥越皓之，帯谷博明編著	ミネルヴァ書房		9784623079346

その他

参考文献は各回のパワーポイントのなかで別途案内する。

授業計画

- ③ 内容：社会関係とは何か。なぜ社会関係について考えることが必要なのか。自分の興味を持った内容をもとめうえで議論に出席すること。(120分)
復習内容：議論ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めること。(120分)
- ④ 近代化と社会関係：社会の近代化に伴って、社会関係の歴史の側面として検討する(博覧会など)。
⑤ 内容：「Ryuka Portal」に事前に掲げる議論資料を見たとうえで、自分の興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで議論に出席すること。(90分)
復習内容：議論ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めること。それをもとめ、自分の考えを整理しておくこと。(150分)
- ⑥ 社会関係におけるメディアの役割と影響：社会関係とメディアの関係について特に「Twitter」「オリンピックなど」に着目して考える。
⑦ 内容：興味するメディアの役割と影響について事前に掲げる議論資料を見たとうえで、自分の興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで議論に出席すること。(90分)
復習内容：議論ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めること。それをもとめ、自分の考えを整理しておくこと。(150分)

4. 社会開発の政治性 開発の主体の問題：社会開発が示す権力構造と政治性について考える。
 予備内容：『Ryuka Portal』に事前に掲示する講義材料を見ながら、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
 授業内容：講義「Ryuka」を整理・復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまえ、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

5. 社会開発の政治性、開港とジェンダー：ジェンダーの視点から社会開発のはらむ問題について考える。
予習内容：「Ryuka Portal」に事前に提示する講義資料を見ながら、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
授業内容：講義ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまえ、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

6. 開発と保存の問題 負の遺産をめぐる葛藤：開発や復興のなかで（特に負の）遺産はどのように位置付けられていくのか。
予備内容：「Ryuka Portal」に事前に提示する講義資料を見たとて、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
当日内容：講義ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めると。それをふまえ、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

7. 開発と保存の問題 歴史的町並み保存：歴史的価値を守ることと地域経済の発展や住民生活の利便性向上は両立可能なのだろうか。
予備内容：「Ryuka Port」に事前に掲示する講義資料を見たとし、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例等を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
留意内容：講義のテーマを整理・復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまえ、自分の考えを整理しておくこと。（15分）

8. 社会開発をめぐる問題 戦後日本における開発主義：戦後日本における開発主義とはいかなるもので、どのような問題をはらんでいたのか。
 予備内容：「Ryuka Portal」に事例に提示する読義資料を見たうえで、自分の興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を調べたうえで講義に出席すること。（90分）
 復習内容：講義・事例を整理し、授業内容の理解を深めること。自分をふまへ、自分の考えを整理しておく。（150分）

9. 社会開発をめぐる問題 環境破壊と公害問題：社会開発が抱える負の側面に焦点を当て、開発の弊害について考える。
予備内容：「Ryuka Portal」に事前に提示する読解資料を見たとうえで、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
授業内容：講義ノートを整理・整理し、授業内容の理解を深めること、それをふまえて、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

10. 社会開発をめぐる問題 公害・環境被害地域の再生活動：起きてしまった公害・環境問題に対して我々は何ができるのだろうか。
 予備内容：Ryuka Port 事業に際しての諸議案を見つめて、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を用いて調べ内容を「議案」の形式を整理し、復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまえて、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

11. 社会開発の「持続可能性」・エコ・ツーリズム：ツーリズムの視点から社会開発の「持続可能性」について考える。
 予習内容：「Ryuka Portal」に事前に提示する講義資料を見つらうで、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を調べたりうで講義に出席すること。（90分）
 授業内容：講義・ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまへ、自分の内容を整理しておくこと。（150分）

- 1.2. 社会開発の「持続可能性」 地域再生・まちづくり：持続可能な開発に向けた取り組みとして、地域再生・まちづくりの実践について検討する。
 予備内容：「Ryuka Portal」に事前に提示する授業内容を基にたうえで、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
 授業内容：講義ノートを整理・復習し、授業内容の理解を深めること、自分をふまえて、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

- 1.3. 社会開発の「持続可能性」 復興と社会開発：震災後の地域再生を通して、社会開発におけるコミュニティが持つ意義について考える。
 予備内容：「Ryuka Roputa」に事前に掲示する講義資料を見つたうえで、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
 講義内容：講義テーマを整理し、復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまえて、自分の考えを整理しておくこと。（150分）

- 1-4. SDGs（持続可能な開発目標）とこれからの社会開発：今後の社会開発が示す方向性と新たな実践（フェアトレード、エシカル消費など）について考える。
予習内容：「Ryuka Portal」に事前に掲示する講義資料を見たりして、自分が興味を持った内容について言葉の意味や具体的な事例を下調べしたうえで講義に出席すること。（90分）
授業内容：講義の導入・復習し、授業内容の理解を深めること。それをふまえて、自分の考えを整理して発表すること。（150分）

- 15.授業の総括：社会開発を通して我々の生きる社会のあり方と未来について考える。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A1型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目では、社会開発にまつわる諸現象とそこから生じる問題を社会学の視点から考える。こうした視点を得ることは、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ayuka Portal」を通して行う。
また授業内容では社会開発についてより詳しく学ぶ機会として多くするために、レジュメやパワーポイントとあわせて、映像資料も積極的に使用する。社会開発とはいかなるもので、我々の社会と開発はどのような関係にあるのかを意識し、映像資料(社会開発に関する歴史映像やコミュニティーなど)を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考